

株式会社ミュージックバード

第67回番組審議会

1. 開催日時 平成27年9月9日(水) 15時00分～16時30分
2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室
3. 出席者
＜番組審議会委員＞
矢内 廣 委員長
松尾 修吾 副委員長
中西 健夫 委員
村井 裕弥 委員
福本 ゆみ 委員
佐野 光徳 委員

＜ミュージックバード＞
代表取締役社長 一瀬 勝
常務取締役コンテンツ事業部長 雄谷 英一
取締役技師長 江森 武男
監査役 関田 好久
コンテンツ事業部グループリーダー 岩崎 育郎
コンテンツ事業部プロデューサー 田中美登里
4. 議事内容
(1) 放送活動のご報告
(2) 番組試聴
(3) その他の活動
5. 配布資料
(1) 第67回番組審議会資料
(2) 雑誌「CDジャーナルムック～マイオーディオルーム」記事
(3) 雑誌「特選街ムック～大人のオーディオ大百科」記事
(4) 雑誌「ステレオ時代」記事

(1) 主な放送活動報告

<121ch>THE CLASSIC

【WORLD LIVE SELECTION】(土・日 22:00~24:00)

6月/シュューベルティアーデ 2014、シュティリアルテ 2014

指揮者ニコラウス・アーノンクールが1985年に創設した音楽祭「シュティリアルテ」。モーツァルト後期三大交響曲をはじめ、パーセルの歌劇「妖精の女王」などを紹介。

7月/ズービン・メータ指揮ブルックナー9番

ウィーン・フィルとの関係が深く、日本でも人気の高い世界的指揮者、ズービン・メータが自身のデビュー録音作品でもあるブルックナー最後の交響曲第9番を。

8月/フィンランド、チェコ、ロシア…故郷を想う

「シュューベルティアーデ 2014」「ウィーン・コンツェルトハウス 2014/2015」から選りすぐりのコンサートを。

「ウィークエンド・スペシャル」6月27日(土) 12:00~18:00

【緊急特集】決定！ベルリン・フィルの次期首席指揮者はキリル・ペトレンコに！！

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団が6月22日、新たな首席指揮者にロシア出身のキリル・ペトレンコ氏(43歳)が選ばれたと発表したのを受け、緊急特集。

ペトレンコ氏はシベリアのオムスク出身。1972年生まれ。10代で音楽家の両親とともにオーストリアに移り住み、ウィーンで音楽を学びました。2001年からベルリン・コーミッシェ・オーパーの音楽総監督。2013年からケント・ナガノの後任として、バイエルン州立歌劇場の音楽総監督に就任するほか、同年からバイロイト音楽祭の新演出『ニーベルングの指輪』の指揮も担当しました。ロシア系だけでなくドイツ系の作品の解釈でも高い評価を受けています。ベルリン・フィルの楽団員による首席指揮者の選考は5月にもありましたが、議論が11時間にも及び、異例の先送りとなっていました。ペトレンコ氏はわずか3回の共演でベルリン・フィルの心を射止めたこととなります。

番組では緊急特集として、指揮者ペトレンコとはどのような人物か、そして、その音楽を6時間にわたって紹介。出演は、5月の時点でペトレンコを候補の筆頭に挙げていた山崎浩太郎。

《MB》前回の当会議ではベルリンフィルの次期指揮者が決まらなかったという特番を報告したが、6/22にペトレンコに決まったと言うことで6/27に緊急特集を行ったことなどが報告された。

《委員》決まってからこのようなタイミングで番組に出来たことは素晴らしい。

《MB》パーソナリティの山崎氏が当初からペトレンコを予想していたこともあり、このようなタイミングで放送が出来た。

《委員》イタリアやロシアからはこのような才能が今後多数出てくると思われる。ミュージックバードの平井洋さんの番組でもペトレンコは注目していたこともあった。

<122ch>THE JAZZ

【SPECIAL WORKS】(月~金)17:00~20:00 再放送=(日)8:00~23:00

毎週8時間にわたりアルバムを紹介していく、ディスコグラフィー・プログラム。ジャズ初心者には入門ガイドとしても役立ちます。

6月1日~4日/生誕100周年~不世出の天才歌手 ビリー・ホリデイ特集

6月8日~11日/未発表発掘レーベル「レゾナンス」特集

- 6月15日～18日／プロデューサー・シリーズ③～マイケル・カスケーナ
- 6月22日～25日／南アフリカが誇るジャズ・ピアノの至宝 アブドゥーラ・イブラヒム特集
- 6月29日～7月2日／” 生きる伝説” アルト奏者 ルー・ドナルドソン特集
- 7月6日～9日／北欧の歌姫たち～シゼル・ストーム、カーリン・クローグ、シーネ・エイ他
- 7月13日～16日／国内最高のジャズを！『軽井沢ジャズ・フェスティバル』特集
- 7月20日～23日／先鋭的ジャズムーブメント『M-Base』30周年記念特集
- 7月27日～30日／プロデューサー・シリーズ④～追悼ブルース・ランドヴァル
- 8月3日～6日／追悼～フリージャズの巨人 オーネット・コールマン特集
- 8月10日～13日／来日！ギターの俊英 ジェシ・ヴァン・ルーラー特集
- 8月17日～20日／新しいジャズの可能性を追う旅～ハービー・ハンコック特集
- 8月24日～27日／日本最大級の祭典『第14回東京JAZZ』特集

<124ch>THE AUDIO

【ザ・サウンド・イン・マイ・ライフ】隔週土曜 10:00～11:00 再放送＝土曜 21:00～22:00

1960年代後半から東芝音楽工業、東芝EMIのレコーディング・エンジニアとして数々の歴史的な音楽作品を残してきた行方洋一氏。1970年代のオーディオ全盛時代に「生録」マスターとして全国の音を集めて回り、生録ブームの立役者でもありました（当時、FM東京の番組にもレギュラー出演）。現在も過去の音源のリマスタリングに余念のないその行方氏が、貴重な音源と体験談を紹介する番組がスタート。日本の録音史の生き証人がこれまでに会った印象的な「音」と「音楽」について語ります。

【行方洋一のサウンド紀行】（月～日）19:00～19:10

大の鉄道ファンだった行方洋一氏が全国を回って集めた「蒸気機関車」を中心に、「ねぶた祭り」「三社祭」や祭囃子、花火や梵鐘など懐かしい昭和の音を週単位で放送（行方氏の解説入り）。

<蒸気機関車・九州編①～⑤>

- 6月29日～7月5日／①鹿児島本線鹿児島機関区構内B20入替、添乗
- 7月6日～12日／②肥薩線大畑ループ線D51後部補機D51混合列車通過
- 7月13日～19日／③豊肥本線立野スイッチバック9600貨物通過
- 7月20日～26日／④久大本線豊後三芳駅にて8620客車列車到着～発車
- 7月27日～8月2日／⑤日豊本線楠ヶ丘信号場C57_192本体列車発車

《MB》オーディオファンの方には蒸気機関車の音のファンも多い。鉄道マニアの雑誌で本番組が紹介されたところ、加入契約が増えた。

《委員》CDとしては発売しないのか？ダムの放水のDVDが2万枚売れたと聞く。音楽でいまやなかなか2万売れないが、蒸気機関車のこれも売れると思う。

(2) 番組試聴

◆「HANZOMON SUMMER 2015～戦後70年に想う」第4回クラシック音楽と放送

【放送チャンネル】121ch「THE CLASSIC」

【放送日】2015年8月23日(日)16:00～22:00

【出演】東条碩夫（音楽評論家）、田中美登里

【番組概要】THE CLASSIC初の音楽祭『HANZOMON SUMMER 2015』。8月は「戦後70年に想う」と題し、多くの尊い命が犠牲になった第二次大戦の終結から70年を迎えるのにちなみ、戦争の歴史と音楽、戦後の復興の歩みと音楽につ

いて5つの特集を放送しました。

23日はその第4回。「クラシック音楽と放送」をテーマにエフエム東京前身の実験局、エフエム東海時代から、エフエム東京開局、ミュージックバード開局と、長きにわたって放送の現場に携わって来た、まさにクラシック音楽放送の生き字引！東条碩夫さんのご案内で、戦後の「クラシック音楽と放送」をテーマにした6時間。放送局による演奏会のライヴ収録、クラシック番組の変遷、録音メディアの移り変わりなど…、ここでしか聴けないお宝音源や貴重なエピソードを紹介。

■東条碩夫（とうじょう ひろお）プロフィール

早稲田大学卒。1964年FM東海（のちのFM東京）に入社。「TDKオリジナル・コンサート」「新日フィル・コンサート」など同社のクラシック音楽番組の制作全般に携わる。1975年文化庁芸術祭大賞受賞番組制作（武満徹作曲「カトレーン」委嘱制作）その後、FM静岡編成制作部長、FM東京第一制作課長、FMサウンズ取締役制作部長、「ミュージックバード」（CS-PCM衛星デジタルラジオ）編成部長等歴任。現在は、フリーの評論家として新聞・雑誌等に寄稿し、TV、FM番組に出演。主な著書に「朝比奈隆ベートーヴェンの交響曲を語る」や「伝説のクラシック・ライヴ」などがある。

■「HANZOMON SUMMER 2015」その他の放送

7月：北欧の音楽

7月5日／第1回：生誕150年記念 シベリウス～森と湖の国の伝説 出演：田中美登里

7月12日／第2回：生誕150年記念 ニールセン～多島海とビールのある国から 出演：田中美登里

7月19日／第3回：グリーグ～山とフィヨルドを見つめて 出演：小山ジャネット愛子

7月26日／第4回：北欧スタイル～北欧の音楽、言葉、自然

8月：戦後70年に想う

8月2日／第1回：20世紀のレクイエム 出演：田中美登里

8月9日／第2回 バイロイト音楽祭 戦後の歩み 出演：船木篤也（音楽評論家）

8月16日／第3回 戦時下の日本人作曲家 出演：片山杜秀（音楽評論、政治思想史）

8月30日／第5回 ずっとクラシックを聴いてきた 出演：宇野功芳（音楽評論家）、山崎浩太郎

《MB》7月、8月は「ミュージックバード夏の音楽祭」という設定で、「HANZOMON SUMMER」と題してお届けしたが、8月は特に戦後70年の終戦記念日もあり、「戦後70年と音楽」をテーマとした。クラシック音楽こそ時代を映すとも言える中、放送の歴史とクラシック音楽の関わり、FM東海からFM東京が開局に至る経緯をお分かりいただけたと思う。

《委員》・FM東海の免許が更新されなかった話は当時の悔しさが良く伝わってきた。放送事業に携わった方々には非常にリアリティがあったと思う。

- ・クラシックは新しいメディアができる就先頭を切って使われ、いつの間にか他ジャンルに追い出されて違うメディアに移っていくという難民のような存在と言う言葉が心に残った。
- ・昔の音源は、語りにしても音のつくりやエコーのかけ方が今と全然違う。古い音源をもっと聴いてみたいと思った。
- ・戦後70年に想う、企画として良かったと思う。

(3) その他の活動

- ① 121ch THE CLASSIC 片山杜秀「パンドラの箱」書籍化第3弾
毎月最後の金曜日の夜、THE CLASSICで放送している「片山杜秀のパンドラの箱」の書籍化第3弾『片山杜秀の本7 大東亜共栄圏とTPP』（アルテスパブリッシング）が

6月末に刊行。日米安保、二大政党制、総選挙、冷戦構造、反原発デモ……
司馬遼太郎賞受賞の名著『未完のファシズム』（新潮選書）や『国の死に方』（新潮選書）で確立した〈片山史観〉を展開。社会思想・歴史と音楽への深い洞察と知見をベースにした新しいスタイルの社会批評として好評発売中。

② コミュニティch 「杏奈カフェ♪」放送200回記念公開録音

日時：2015年7月19日（日）18：30開場／19：30開演

場所：TOKYO FMホール

出演：冴木杏奈

協賛：アデランス

内容：タンゴシンガーの冴木杏奈がパーソナリティの全国コミュニティFMラジオ番組「杏奈カフェ♪」放送200回を記念した公開録音。冴木杏奈がステージで使うアデランスのレディースウィッグ“フォンテーヌ”を協賛に、ステージ衣裳や演出の裏話を披露。青森から鹿児島まで多くのリスナーが全国から駆けつけた。

③ 特別番組「LIGHT UP NIPPON 2015」

放送日時：8月11日（火）19：00～19：55

放送局：FM仙台、FM岩手、ふくしまFM、TOKYO FM

制作：FM仙台／MUSIC BIRD

番組内容：東日本大震災の被災地、岩手・宮城・福島の沿岸部10数箇所ですぐの月命日である11日に、鎮魂と復興の祈りを込めて19時から一斉に花火を上げるプロジェクト「LIGHT UP NIPPON」第5回の様子を伝える特別番組。今年は神宮外苑花火大会との共催が実現。神宮に放送拠点を置き、東北各地とも電話を繋ぎ、集まった人々の想いを伝えた。

《MB》2011年の8/11から続く震災復興支援企画で今年が5回目として取り組んだ。

《委員》福島、宮城、岩手の被災地にPITというライブハウスを作り始めているがアーティストの想いも強く、継続した支援が期待できる。大学の講座のような形も検討できるのではないかな。